
英雄の条件

よるきつね

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

英雄の条件

【コード】

N5315K

【作者名】

よるきつね

【あらすじ】

少年は聖剣を使い、英雄となった。

少年は迫りくる大群に相對するようにして、荒野に一人、立っていた。万を越える数の敵軍を、少年は目を逸らしたい衝動をこらえて必死に見つめる。

「こ、怖くなんかないぞ……………ぼくには聖劍がついてるんだ」
腰に吊られて鞘に入ったままの、一振りの劍。王から授かったその劍は、恐ろしい戦場にて選ばれし勇氣ある者にしか、鞘より抜くことができないのだという。

王は、少年なら必ず抜くことができると言つて、その劍を手渡ししてくれた。土煙を上げて祖国へと迫りくる敵軍の兵士たちに対して、聖劍の柄を強く握りしめる。

負けるわけにはいかない。この劍によつて敵を打ち倒し、多大な名声を得て、好きなあの子と結ばれるのだ。

勇氣を振り絞り、少年は勢いよく劍を抜き放った。

そして美麗な裝飾のなされた鞘から、まばゆい光とともに現れたのは　ナマコだった。

「な……………っ!？」

少年は思わず目を剥いた。

鞘から出てきたのは太陽の光を受けてきらりと反射する銀の刃などではなく、ただのナマコである。つばの先に直接ナマコが生えていた。ぬめつとした青緑の体をくねらせて、先端にある口元の触手がむにやむにやと蠢いている。すぐそこまで迫る敵たちと劍を何度も見比べるが、劍身は見間違いで何でもなくナマコに他ならない。もつどうすることもできずに、少年は死を覚悟し、絶望して立ち尽くした。

と、

「へっ？」

ナマコの身体が膨張し、巨大化し、猛烈な動きで敵の兵士たちを

大きな口で喰らい始めた。まるで蛇のように長いその体のなかに、
どんだん人間が飲みこまれていく。ある者は泣き叫んで逃げまどい、
ある者は果敢に挑んで飲み込まれていく。阿鼻叫喚の戦場で、どん
どん敵軍が小さくなっていく。

「す、すごい……っ」

感嘆の聲が、少年の口から漏れた。

これなら無事に戦場から帰ることができる。名誉と報奨を得て、
今は国で怯えているのだらうあの子と、二人で幸せになれる。

そう考えているうちに、戦場の兵力は一掃されていた。

ナマコは逃げる者も一人も残さず、すべての兵士を丸飲みにする
と、その長い身体を剣のほうへと引き戻した。

「ありがとう、聖剣。ぼくは………」

少年が最後に見たのは、触手の蠢く、ナマコの大きな口だった。

そして、誰もいない荒野に、美しい鞘におさまった一本の剣だけ
が残された。今はただ静かに、王によって選ばれた、自らを扱う勇
気を持った者を、聖剣はまた待ち続けているのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5315k/>

英雄の条件

2010年10月10日06時17分発行